

平成29年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
7月24日（月）	美濃地区振興センター	19:00～20:00	15	6	21

○市側出席者

市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

平成29年度施政方針

① 企業との連携

施政方針の大きな柱の一つとして、地元企業との連携を強化するということを掲げている。

これに基づいて今年度は、子育てを支援する企業について「益田子育て応援宣言企業」という登録制度を設け、また、UIターン者の定着に力を入れて取り組む企業を「UIターン者サポート宣言企業」という形で登録させていただいている。

加えて、先般は、市が進める五輪キャンプ誘致、或いは自転車のまちづくりに関して、これに協力する企業の登録制度を設けたらどうか、というご提案を民間企業の方からいただき、今、検討しているところである。

こうしたことで、市が展開する施策や進む方向と同じ向きで取組を支援していただける企業との連携を深めたいと考えている。

② 空港利用拡大

萩・石見空港東京線は平成26年3月から2往復運航となっているが、来年春以降の継続の有無は今年の秋頃に決まるとされている。

大きな指標となる搭乗者実績は、これまでのところ目標を下回る厳しい状況にあるが、現在、様々な方面に協力をお願いして利用促進に努めている。また、搭乗実績のほか、空港を活用した当地域の振興策等を示すことも重要なこととなる。最近では、首都圏の大学と連携協定を結び、首都圏から学生を招き、或いは、益田の学生が首都圏の大学で学びの機会を得るという動きも進めている。

この路線を確保することが、地域活性化になくてはならない重要な要素となるので、市民の皆様の広いご理解とご協力をお願いしたい。

③ 東京五輪キャンプ誘致について

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける自転車ロードレース競技の事前キャンプ誘致を進めている。ここ数年、市内でINAKAライドやチャレンジャーズステージなどの競技が定期的に開催され、本競技に対する機運が高まっている。それに応じて誘致に取り組んでいる。

具体的な誘致国については、できれば年内に絞り込みを行い、来年5月のホストタウン登録を目指すこととしている。

誘致が実現した際には、益田市の知名度向上やスポーツの振興、交流人口の拡大などに加え、オリンピック・パラリンピックの持つ崇高な精神に市民の皆さんが触れることのできる素晴らしい機会になると考えている。

○ 意見交換
質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 美濃小学校の跡地利用について
- ② 道の駅について
- ③ 街路灯の補助金について
- ④ 豪雨災害への対応について
- ⑤ 空港の利用拡大について
- ⑥ 市道の管理について
- ⑦ 救急車の走行等について
- ⑧ 環境美化に係る補助金について
- ⑨ 魅力あるまちづくりについて

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成29年度「市長と語り合う会」

〔会場 美濃地区振興センター〕 開催日時：平成29年7月24日（月）19:00～20:00

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 美濃小学校の跡地利用について 地域づくり協定に基づき、当地区の活動拠点施設の整備を要望してきている。あらためて、平成32年春の供用開始に向けた対応をお願いしたい。</p> <p>② 道の駅について 道の駅を活用しながら地域づくりに取組む地域が全国各地にある。市が進める道の駅も良い場所に建設し、良い内容のものとしてほしい。</p> <p>③ 街路灯の補助金について 市からは、既に本年度の予算枠をオーバーし、申請しても受付できないとの回答があった。地域の安全を考えると現状のまま放置できないので、事後でも補助金の交付が可能となるよう検討してほしい。</p> <p>④ 豪雨災害への対応について 防災に関して精通した、専門知識を有する市職員は何名くらいいるのか。 避難勧告や避難指示を出す場合の市の判断基準はどうか。 市内に雨量計は何か所設置してあるか。</p> <p>⑤ 空港の利用拡大について 益田市だけの取組では利用者の拡大につながらない。萩市や浜田市など近隣自治体との協力体制はどうなっているか。</p> <p>⑥ 市道の管理について 市道城九郎～火打岩線の一部区間で山側から木が覆いかぶさるような危険な状況にあり、また、ほぼ全線にわたって路肩部分の土が盛り上がり、降雨時の排水に影響が生じている。これらは地域で対応するのは困難であり、道路管理者である市において対応をお願いしたい。</p>	<p>①本件は、以前から繰り返し要望をいただいております。市においても平成32年春の供用開始に向けて準備を進めている。 今後も用地取得など必要な手続きを踏み、予定どおり進めていきたいと考える。</p> <p>②道の駅の候補地については、先般整備検討委員会より、益田道路高津インター～久城インター間の県道沿い3ヶ所とする内容の答申をいただいたところであり、これを尊重して場所を確定していきたい。 重要なことは、ここで本市の農産品を含めた特産品を多くの方に買っていただき、住民交流の場ともなるような、様々な要素を加味しなければならない。また、市内の様々な企業と連携して進めることも必要なことで、今後他の機関とも調整しながら取組んでいきたい。 なお、完成時期については、三隅・益田道路の開通に合わせたいと考えている。</p> <p>③当該補助金は、本年度当初予算にて必要額を見込み措置したが、現時点で想定以上の申し込みがあり、現在内部で対応を検討している。 なお、補助金の事後承認は制度上困難である。</p> <p>④総務部の中に危機管理課を設置し、災害対応に当たっている。職員は災害の専門家ではないが、それぞれが年数を重ねて業務に精通してもらうようにしている。 また、避難勧告や避難指示については、気象庁の出す警報や特別警報、災害警戒情報等により判断している。 なお、市内の雨量計の設置数は38か所となる。</p> <p>⑤浜田市や津和野町、江津市など空港利用に独自の助成制度を設ける自治体もあり、現在、近隣市町で連携して東京便の2往復運航を維持するという動きが強まっている。</p> <p>⑥市道の管理は市の責務として行わなければならないと考えている。ただし、市道に関する要望は他地区からも様々寄せられており、現在は優先順位をつけて対応している。指摘の点を担当課に伝え、なるべく早く対応するようにしたい。</p>

<p>⑦ 救急車の走行等について 当美濃地区へ救急車が来るのを見かけるが、一刻を争う事態にもかかわらず、町内をゆっくりと走行しているように思う。場所が分らないのであればカーナビを利用するとか、速やかに現場へ向かうよう努めてほしい。</p> <p>⑧ 環境美化に係る補助金について 市から補助金の交付を受け、自治会で河川清掃を行っている。最近では地区民の高齢化が進み、参加者も減少してきており、もう少し補助金を増額してもらえれば、若い人に日当を支払い、体制の維持が可能になると考える。補助金の増額について検討してほしい。</p> <p>⑨ 魅力あるまちづくりについて 若い人に聞くと、「益田市に魅力がある」と答える者は殆どいない。もう少し、益田市が全国的に誇れる、光るものがあればと常々思っている。 益田市に人を増やす大きな考えがあれば聞かせてほしい。</p>	<p>⑦事情は不明であるが、タイムロスが無いように改善していきたい。</p> <p>⑧財政状況等、全体をみながら検討したい。</p> <p>⑨益田市では現在、「ひとづくり」という課題に力を入れて取組んでいる。平成28年3月に「ひとづくり協働構想」という計画を策定し、このなかで、「しごとの担い手」、「地域の担い手」、「次世代の担い手」の3つの柱を立て、将来の益田市を担う人材の育成に向け、様々な事業を行っている。 「ひとづくり」は、本市においても急がなければならない問題であるが、日本全体の課題でもある。「ひとづくり」で全国の先進地となる、そうした取組を進めている。</p>
---	--